

BARBARITIES

バーバリティース

鈴木ツタ

Presented by
Tsuta Suzuki



BBC DELUXE
ビシーコミックス デラックス



BARBARITIES

バーバリティース

IV

鈴木ツタ

Tsuta Suzuki

BARBARITIES

Presented by Tsuta Suzuki

IV

Ep.27	7
Ep.28	37
Ep.29	77
Ep.30	167
and more	200
あとがき	208

バーバリティース の世界

前巻までのあらすじ

昔々、どこか遠い異国の物語。国の宝と名高いモンタギュー司法卿の警護については、隣国から来た美貌のアダム子爵。ある夜、謎の青年ジョエルにアダムは心を奪われる。だがジョエルの正体は、聖物で有名なモンタギュー卿その人だった。実らぬ恋に思えたが、アダムの真摯な想いが二人の距離を近づけていく。しかしロラインの少年王の叔父、サイモンが戻ったことで事態は急変。サイモンの陰謀により、ジョエルは無実の罪で囚われてしまう。彼を救うため、身代わりになったアダムだったが？！

主な登場人物紹介



アダム・カニング子爵

本名アダム・エリック・カニング。本国テハナ出身。貴族の庶子上がり。ロラインに出向し、モンタギュー司法卿警護の任に就く。ロラインの王太后とは親戚関係。幼少時、実母が再婚の折、遠縁にあたる旧テハナのオベル男爵の元へ養子に出された。その際、縁別代りに実母はアダムに「爵位」を与えている。



ジョエル・リトラ

本名モンタギュー・ジョエル・リトラ。司法院長官モンタギュー司法卿の甥。とは仮の姿。実はモンタギュー司法卿本人。今は亡き前国王から爵位を授かった法服貴族。常に国民のために公平な立場を貫く真面目な男で、幼い国王の補佐的存在。法を重んじ、本人は無宗教。聖物で、色恋沙汰には基本無関心。



他国から恐れられている大国。強欲を善しとする文化を持ち、勢力を拡大中

Tance
〈タンセ〉

Lorraine
〈ロライン〉

単大国に扶まれた要所に位置する小国。女神信仰がまだ根付かず、異端信仰が現れ不安定な情勢に

Xehana
〈テハナ〉

華やかな大国。自由奔放で博愛主義な文化。女神信仰を体現化した女王がおり、元教会本部を持つ

(旧テハナ地方)



ルイス・ラデル公

隣国タンセの王族で諸国遠征中。現在は視察を兼ね、ロラインに滞在している。大国を離れ、次期国王だけあって「癖も二癖もある人物」



ジル

元紋章師。ルイスは彼を、自分だけの忠実な僕として召し抱えている。ルイスが酒乱酔うと肉体的関係を持つ間柄。



サイモン

ロラインの幼き現国王の叔父。謀反の嫌疑をかけられ国外逃亡していったが、野望を胸に抱き、再びロラインに姿を現した。



クリストファー陛下

ロラインの幼き国王。愛称はクリス。



ルカ

タンセ現国王の息子で幼き王子。療養のためロラインに滞在。ルカとしては誰の離れ弟として可愛がられている。



王太后エレノア

クリストファーの母。旧テハナ地方出身。アダムの遠い親戚。



ポール

アダムの従者。主人に対して鋭いツッコミをしても、実は誰よりもアダムの事を理解しており頼りになる存在。







私が必ず
皆を守るから
手伝って欲しい



っつはい！
呼んできます

近くに
リストは
いるか？

今度私が
アダムを救う
算段を
立てねばな

お前の主人を
睨めたつもりじゃ
ないんだポール
悪かった

いや…すまない
自分の救いた法が
機能しているか試す
絶好の機会
だったからつい…



おそらく
一番大事な
役目だ
手伝って
くれるか？

ハッ？

マーサにも
協力を
頼みたいんだが



だがレオネルの
近衛兵たちが
救出して
連れ去った

あの子供の
証言は容易には
取れないだろう

例の棺の中の
子供は
おそらく無事だ

無理に
接触しても
子供の命が
危なくなる
だけだ
口を封じ
かねない



私の周りは
善き者
ばかりだ

そんな

ありがとう
恩に着る

ええもちろん
モンタギュー様の
お役に立てる
ことなら何なりと！



……とはいえ
異端の若者や
保守派の貴族から
支持も得ている

無茶苦茶だが
このまますく
国を制圧して
しまうかもな

女神信仰を
排除して
テハナとの
国交断絶も
辞さないつもり
なら



ただ周りを巻き込んで破滅したいだけなのか



女神信仰の薄い
タンセを既に
味方につけていて
今回のルカ様の
誘拐は狂言かも
……

いえ
それはないと
信じている
筋からの情報が
あります



……既に一度
レオネルに
謀られている
本当に
大丈夫か？

は

すぐにも
計画に
かかります



情報を得て
若と進めていた
計画があります

リスト隊長
旅団の者を
お借りできない
だろうか

……そりや
かまわねえが
隊長は
やめてくれよ
元隊長



頼みの綱が
一つ消えたな

ルカ様の
消息の手がかりも
得られると
思ったんだが

あの……
それでしたら
私の方に
心当たりが！



なんだ二人は
元々
知り合いか？

隊長とは
……？

いえ大した
ことない
昔の話で

アダムより
古い付き合い
ですが
知り合いって
ほど知っては
いないですね



サイモンの奴……
こんな小国欲しさに
大国タンセの王子を
人質に取るなんて
リスクが高すぎる

タンセやテハナと
この後どんな
国交できると
いうんだ？

あるいは――



アダムは
テハナ国境の戦で
戦ったと聞いたが
……？

二人とも
その仲間
だったのか

……
テハナか





……王家の
靈廟を破壊した
損壊罪と不敬罪
そして反逆罪

取り調べで
わかることも
多々あったろうに
やってくれたな
アダム

重要参考人を
逃がすのは
大罪だぞ



お前の処分が
決定するまで
お前には
モンタギュー卿の
悪事を吐いてもらう

知っている限りの
全ての情報をな

えくくく？
ずいぶん
難しいことを
言うなあ



知ってる通り
彼は悪事に
全く縁のない
方だ

あとすれば
この私の心を盗んだ
罪くらいかな……？

わかった
もう口は
まがなくて
いい



ここは
少しも変わって
ないね看守長

皆は元気に
しているか？



相変わらず
正気を疑うな
……

それで？
モンタギュー卿を
逃がしにここへ
侵入したと？

どうだった
かな？

そっちこそ
モンタギュー卿を
捕まえたのは
何でなんだ？
レオネル



……勝手に
看守長に
話しかけるな

尋問中だぞ
わかつてるのか？

すまない
あまりの
居心地の良さに
つい……







!?
なんだよ
今さら
私にはもう
この道しか
ないと
言っただろう!

それが
どうしたと
いうんだ
まさか
そんなこと
のために
呼んだのか?
私は自分が何を
しているのか
わからなく
なってきた
サイモン



王宮に戻る事も
許されない不遇を
お前だけが
嘆いてくれた
このつらい決断を
お前だけが
理解してく
れたじゃないか
お前が
手伝って
くれると
言うから...
今更やめる
わけには
いかないんだよ!
.....っ



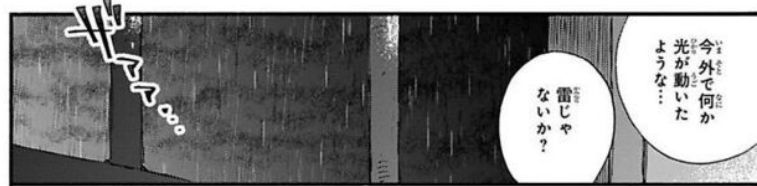
お前だってずっと
女神教に違和感が
あったんだろ?
私が王になって
人々の信仰に
自由を与えると
約束したじゃないか
そのために
二人で
頑張るんだ
な?
.....ああ
そうだ...
そうだよな



ん?
どうした?
ああつ
そんな...
おぞましい



おい
その女!
出る!
今夜も
酌をして
もらおうぞ



今外で何か
光が動いた
ような...
雷じゃ
ないか?



霊廟で
助けた子供が
死んだ?







お前エツ

知ったふうな
口を……!!



ッ

またつい
手を出して
しまった

くそ……ッ

おい
2、3日
痛めつけろ!



——かわいそうに

貴公は
あの方の
足元にも及ばない

相手に
されなかったから
そんなに怒って
いるんだろう?

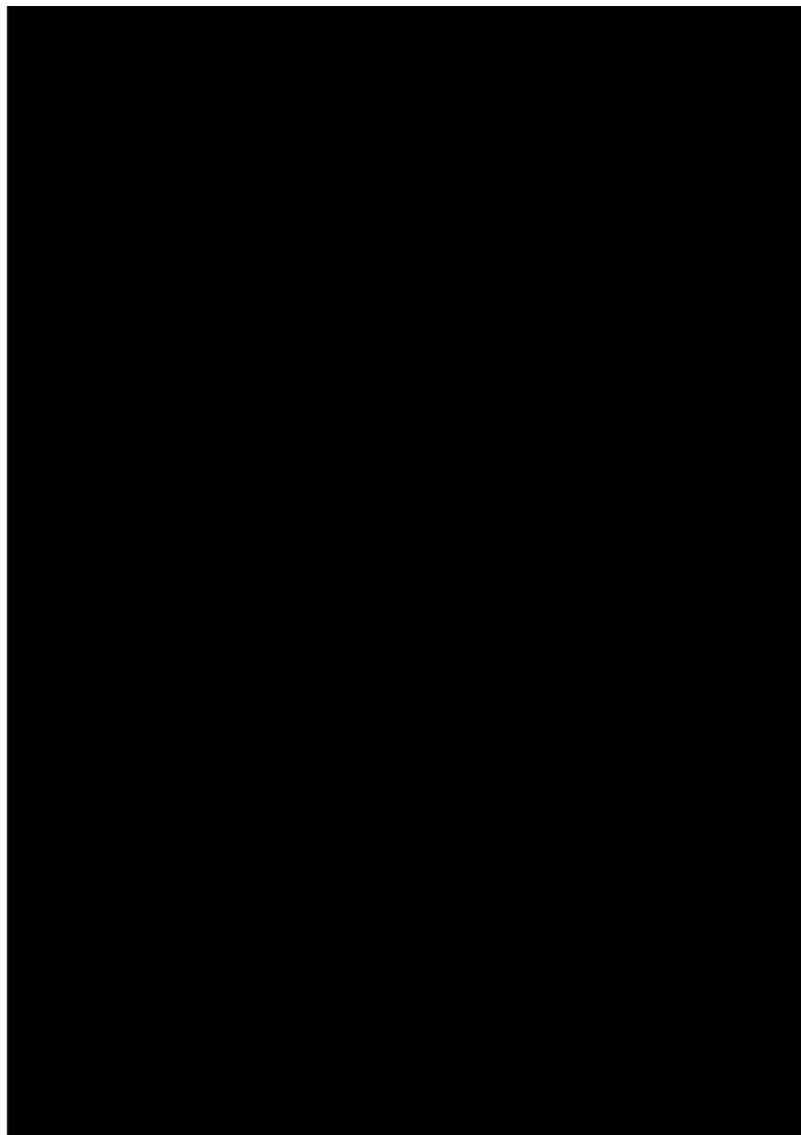






BARBARITIES Ep.28



























貴公が王太后様と
陛下を監禁している間
密かに下された
王命である

聞け！

ここに
証人だ
いる皆が

本当の
謀反の首魁は
そこにいる――



これにより
貴公が暗躍する
謀反の数々の所業を
国家的危機で
あるものと判断し

同盟国
すべてにおいて
貴公を処罰の
対象とする

王命により
この決定を
司法院長官の
私が下した！

私に一任して
くださる
陛下の書状も
ここにある

これは













長い冬が終わり、ロラインに春が訪れた



ジュンチョウに
すんでるのか
母さまが心配
していたよ!

もうすぐ
聖灯祭だね

こんにちは
モンタギューさま



陛下……

ルカ様も
お揃いで



はい

あの……
まあ
なんとか
なるかと

そっかあ
たのしみ
だねーっ

ええ……
そうですね



いえ……
私は特に
用意は……

おや



聖灯祭って
テハナでは
たいせつな人に
贈りものを
するんだって

モンタギューは
ちゃんとじゅんび
した?



あの時
王の敵は
誰の目にも
明らかだった

近衛兵隊長の
シオネルを失った
事で兵たちは
冷静さを取り戻し
驕りは鎮まった

サイモンに
加担した貴族たちは
それでも抵抗を
試みたが

テハナ兵を連れた
枢機卿が戻ると
それもすぐ
鎮まった



何より
シオネルは
証拠を
残していた



先王の墓で見つけた
ペイジルの書記官の
小間使の子供を
密かに匿っていたのだ

子供は
サイモンの側で
その悪事を
全て見ていた

これが
決定的な証拠となり
私の容疑は
晴れた

モンタギュー!





喜んで生還を
祝うべきじゃないか

まさか口蓋でも
見るかのように
私は怯えている

若一ツ

また一人で
部屋を出て
一ツ!!

見慣れない
風貌だから
尚更だな

なんだ
早々にバレて
しまったか



アダムは
サイモンを
突き飛ばした
反動で塀の
外側に落ちたが

内側と違い
積もった雪が
残っていたため
足の骨折で
済んだ

まったく
悪運が強い



最近
過保護だぞ
ポール

そりゃあ
過保護にも
なりますよ!

若の危機に
お側にいられな
かったなんて
従者失格です

二度と
あんな無茶
させません
から……

ぼくからも
おねがい
するよ

こっ……
これは
陛下!
若が相手を
しましたか
でしょうか



あつ
モンタギュー様も
こちらに
いらっしやったん
です

お屋敷へ戻られる
手筈が整ったと
フランク殿から
伝言を預かって
おります

えーっ

モンタギューは
王宮で暮らす
ことしたんじゃ
なかったの!!

申し訳ありません
事後処理で
泊まっていた
だけなので……

前のように
いつでも会いに
参りますから



命が助かって
本当に良かった

なのに
私は

あの時
あの手を
掴み損ねたせいで

一度失って
しまったのだ





は...
...なんだ
まだそんなに
痛むのか？

っ...？
いいえ...
大丈夫です



痛そうだと
気が散る
やめたいなら
さっさと
言えばいいだろ



ろくな言葉も
かけないくせに
毎日ゴウゴウ
お色じがめる
不安定なものを
責めるのか
銃で撃つたとき
詫びてるつもり
なのか

なな単に
やりたいのだ
集中できなくな
て怒ってるのか



七...
ずっと機嫌が
悪いな...
悪いのに
毎日これだ



人の気も
知らないで
...



っは
あ！
んっ...
あ！
...











昏い喪失の底から
決して手の届かない光が
見えているだけ

……とはいえ
妻美をやるのが
主人の務めだな



……
息がでない
水の底で
ただ眺めて
いるだけ



一人遊びはやめて
役割を果たして
やるとするか

……
ありがとうございます
ございます

焦がれもしない
望みもしない
奪うことも諦めた



この有様……
死後は
祖国の皆に
ハッ裂きに
されるだろう
なあ……



……
?



お前……今……
性欲で人生が
狂ってる最中か？

この状況で
それを
言います!?



もう……
あるべき人生は
失った

代わりに
得たものなど
何もない

ただ



次にお前の
本音が
聞けるのは
いいだろうな

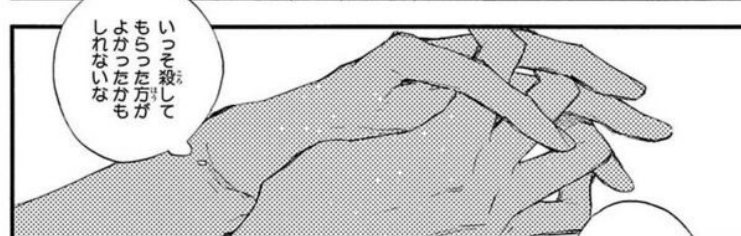


まだタンセの
王子に返して
なかったんですか
陛下の贈り物
なんでしょう？
……

おや…
それ



ならば
これ以上の
喪失もない



いっそ殺して
もらった方が
よかったかも
しれないな



無上の
喜びです
……
ルイス様



……
また
芝居がかった
真似を……



最近ロラインに
来た君には
馴染みがないと
思うが

この国では
異教徒も異教義も
区別されずに纏めて
異端と呼ばれる

「女神教も
元を正せば
男神あつてこそ」
……

タンセの影響で
この国には異端の
教えを信じる
者も多い



……これは
違う
見ろ



同じ物が
ふたつ……？
偽物があつたって
ことですか？

それも
違う
これは……
ふたつとも
本物だ



王太后はもとも
異教義を信じる
旧テハナの者

先のロライン王も
土着していた多神教を
尊重していたし
女神教の熱心な
信者という
わけでもなかった

そこで教会が
近衛兵隊長に
推薦したのは
両親が敬虔な
女神教信者だった
レオネルのだが……



このリボンを
見る限り
思った以上に
二人の結びつきは
強かつたようだ

これらは
互いの懐に
入っていたよ



両親が知らぬ間に
彼本人は異端に
染まっていたと
いうことだな

それをサイモンは
知っていたから
彼を脅して
利用したものが
私は思っていたが



……これらは
サイモンと
レオネルが
所持していた
ものだ



陛下がルカ様に
贈った王のリボンは
もう返却した

このリボンは
先王が作った
ものだろう



その川は
サイモンが以前
ある貴族の女性の
死体を遺棄した
川だった

彼は罪を重ね
結局は自分も
川へ投げ込まれたのだ

この王のリボンは
先王の手により
造られた物

罪人に持たせるべき
物ではないと
遺品から回収
されたんだが

さて…
どうしたものかと
扱いに困っている



つまりこれが
唯一彼らが
生きていた
証拠となるな…

王太后様からは
国の宝物庫に
保管せよとの
命を受けている
記録を抹消
されているゆえ
これは詳細不明の
王のリボンとして
登録されるが



モンタギューは
個人の遺品として
火刑の折に
共に燃やせと
主張したん
だがな

なるほど
それここに



それはまた
なんというか
…厄介な

全くだ

レオネルは
サイモンに刺され
事件の次の日
亡くなった

両親の嘆願は
聞き入れられず
彼の遺体は
死んでなお
火刑に処された



サイモンは
事件の折
城壁から
転落死したが

その罪はあまりに
重すぎたため
彼もまた遺体を
火あぶりにされた

火が消えた後も
野晒しにされたため
民が見物に
押し寄せたという



また彼には
王族にとって
最も重い刑とされる
記録抹消罪が
執行された

これにより彼の名は
コラインという
国の記録から
一切消去され
その存在はなかった
ことになる

そして遺灰は
レオネルの
遺灰と共に
国外へと流れる
王宮の裏の川へ
投棄されたのだが







…これはもしや
気付かなかつた
ふりをせねば
ならんやつか？

仕方ない
もう少し
休むか

…全く

馬鹿な
奴だ…



たいぢや
〜！！

モンタギュー
様〜！！



…っ

まさか
見張りを
…？



病み上がりの
くせだ

お前も
疲れてる
くせだ

本当に
心配症に
なったなあ…



































そんな不安そうな顔をしないで…

願わくはずっと隣で愚かな私を救い続けてくれ



私はあなたにいいものだけ与えるから

——っ…
アダム…

手を…

ああ

離さないよ
ジョエル

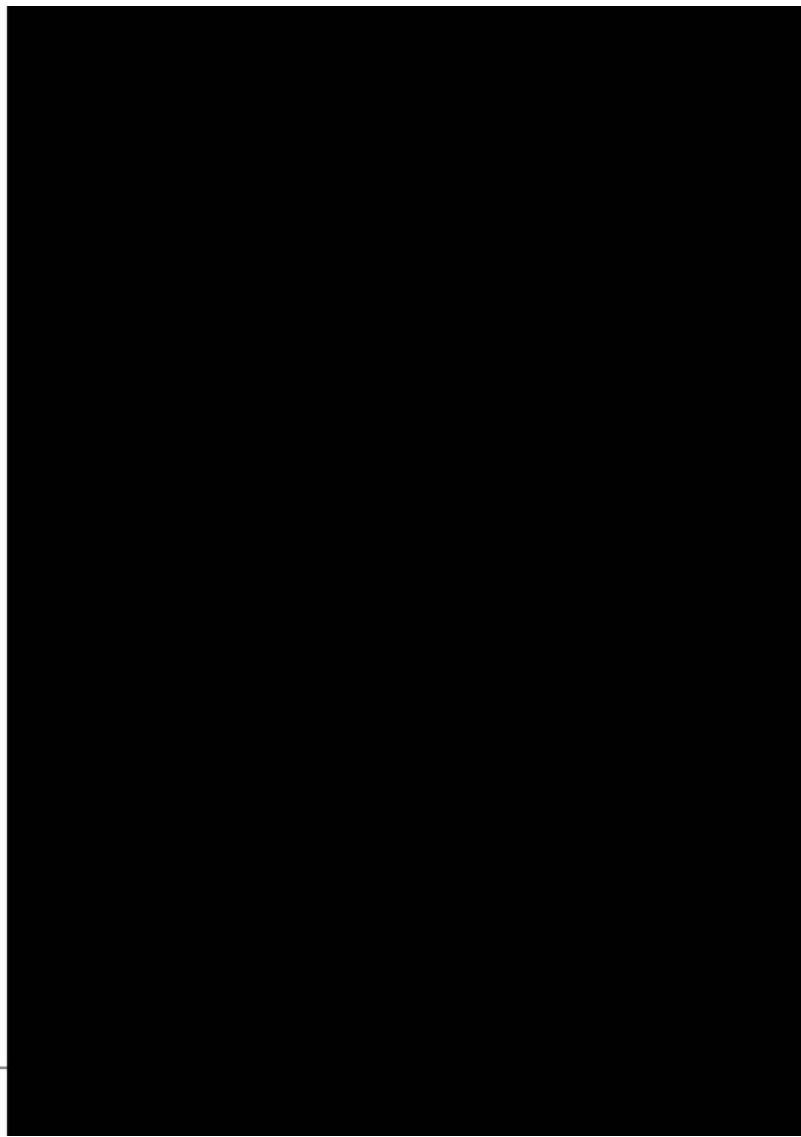
ん…

甘ったおくって
優しい男
私の男

…
だから
どうか









まあでも
聖灯祭さえ
終われば少し
余裕ができる

休暇を
とっていいぞ
アダム



それは
働いてると
いうんだ
アダム

私は旅に
出るほどの
余裕はない

主人が休まない
私も休めない
と思うなあ！

働き詰めの
主人を警護
しながら休暇を
とりたいなあ！



ジョエルは
恋人を甘やかす
タイプだった

……
聖灯祭から
逃げ出せなく
なってしまった
……？

せいぜい馬車で
行ける範囲内
だな

それでも
いいか？

も……
もちろん！

では
申請して
おこう

これが
聖灯祭の
贈りものに
なるなら
いいんだが



お前も今日は
いつもより
派手だな

ああ……私は
普段のままで
いいとポールに
言ったんだが

聖灯祭の
式典だからと
押しきられて



だが私は昔から
聖灯祭があまり
好きではなくて……

できることなら
期間中は旅に
出たいくらいだ

そうなのか？
意外だな

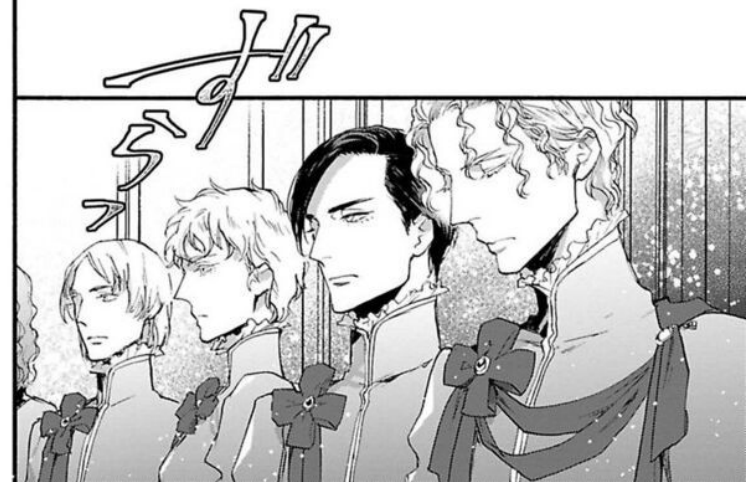
私も
悲しい



いいじゃないか
似合ってるぞ

本国テハナでも
やはり皆着飾って
祝うのか？

そこらじゅう
人人も屋敷も……
通りの端まで
飾り付けるよ











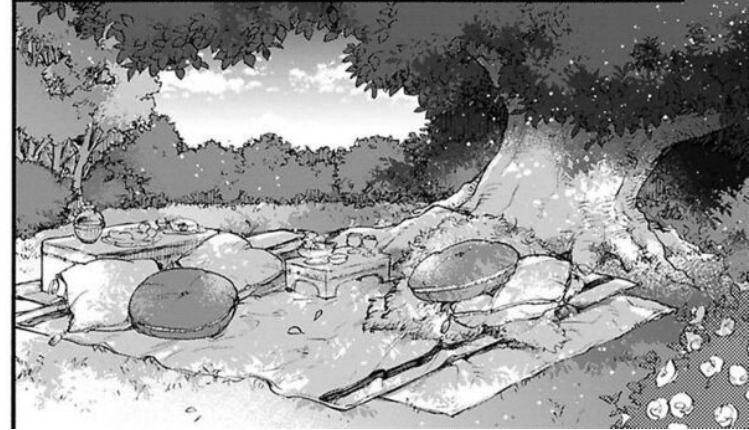
聖灯祭など
どうでもいい！

……っ
気持ちは
わかるが
働いて
もらうぞ！













明日も
その次の日も
ずっとずっと
その先まで

私はあなたの
そばにいる！

わかった
わかった
そうしてくれ

BARBARITIES IV / END





忘れるものか
あなたと何度か
接吻の練習を
した場所だ

出逢った日を
思い出すな



…あの日の
続きでも
するか？



珍しいな
あなたが外で
そんなことを
言うなんて…

……ん



夫人が
うらやま
しいわ！
私達にも
お声が掛から
ないかしらね

ハッ

キヤ

ジョエル
さっきの部屋で
聞き込みを
した方が…

獄中のマクタード
からこの屋敷を
買った人物を
調査するんだろう？



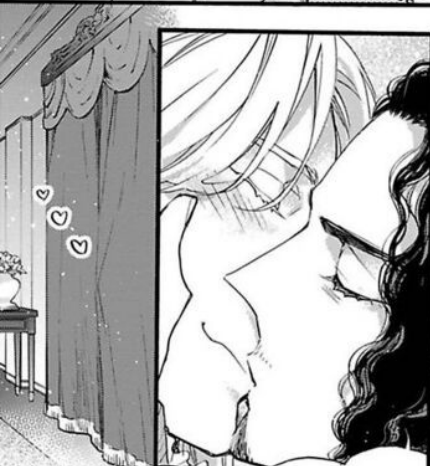
…確かここ
だったな？

！



……
喜んだんだな？

お前は
期待以上の
反応を
するなあ……



わざわざこの館に
夫人を戻らせて
管理人をやらせて
甲斐があった

今夜は
私のために
髪を伸ばして
くれた礼を
したかったんだ

……つあなたは
私を驚かせる
天才だな！

情報収集には
もってこいの
場所だろう？
思いついた場所を
買う馬鹿な男にも
なってしまったが

……まさか
この屋敷を
買ったのは
あなたか!!

and more / END



着飾っていると
脱ぎにくいな

下だけ
おろして
やるか

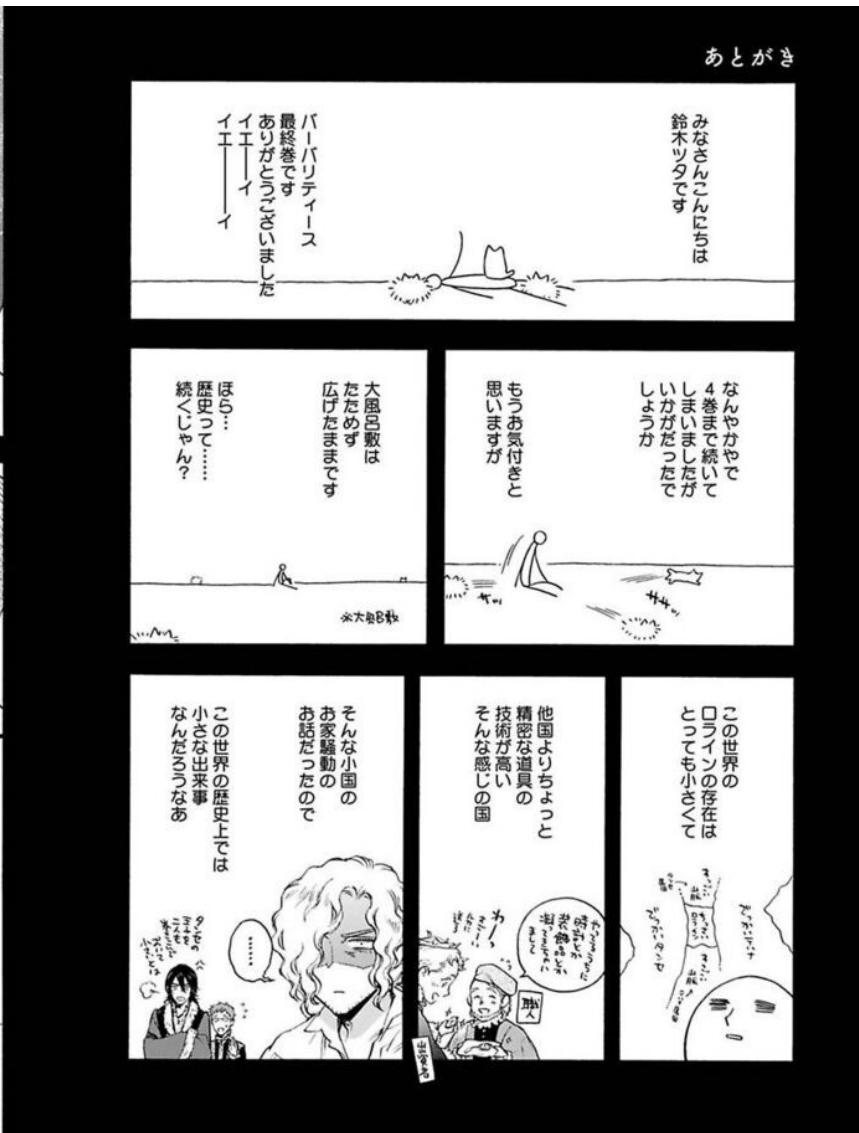
えっ



狭いが
出来るだろ？

ジヨツ
ジヨエツ

シ
ー
ツ



BBC DELUXE

ビーボーイコミックス デラックス

(初出)

BARBARITIES Ep.27~Ep.30

(MAGAZINE BE×BOY 2019年11・12月号、2020年1~10・12月号、
2021年2・4・6月号)

and more 描き下ろし

あとがき 描き下ろし

BARBARITIES IV

2022年1月10日 電子第1版発行

著者 鈴木 ツ タ

© Tsuta Suzuki 2022

発行者 太田 歳 子

発行所 株式会社リブレ

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂6-46

ローレル神楽坂ビル

電話 営業 03(3235)7405

本書は紙版刊行物を電子書籍化したものであり、掲載されている情報は紙版出版時点のものです。[紙版発行：2022年1月10日]

この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件等とは一切関係ありません。
本書の一部、あるいは全部を無断で複製複写（コピー、スキャン、デジタル化等）、転載、
上演、放送することは法律で特に規定されている場合を除き、著作権者・出版社の権利の
侵害となるため、禁止します。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル
化することは、たとえ個人や家庭内で利用する場合であっても一切認められておりません。